

進路通信 ～夏休み特集号 vol.1～

文責 進路指導課 阿部

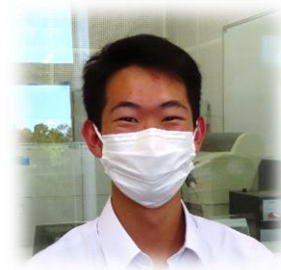
夏休みの間に様々な進路面・学習面で、活動をしてきた生徒を約1か月にわたって、取り上げたいと思います。同じ伊豆伊東高校生の夏の頑張ったことを知って、皆さん自身が2学期に何か自分の殻を破るきっかけにしてもらえればと思います。

「他校の生徒とのかかわりが刺激的だった」 21HR 大川君

2023 年度 夏季高校生グローバルスクール 8月10日～11日

現代のグローバル社会が抱える様々な課題の解決には、文系や理系といった学問の枠組みを越えた発想が必要です。そこで、西東京に所在する3つの国立大学(東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学)は、それぞれの大学の特徴を活かした専門分野の教育だけでなく、文系・理系という垣根を越えた「協働」を学ぶ実践型のグローバル人材育成プログラムを行っています。

今回、大川君はこの企画に参加し、1泊2日の研修に参加してきました。



スクールの過去の様子

Q.どんな企画に参加してきたのですか？

今回「格差」というのが私たちのテーマでした。「格差」問題について、様々な視点から考える企画が1日目に行われました。具体的には「海洋資源の格差」、「ジェンダー」、「問題解決の手順」について、大学の先生などの講演を聞きました。1日目は講義だけではなく、様々な地域から集まった高校生同士でのレクリエーションなども行われました。2日目は、1日目の講義などを踏まえて自分たちで課題を設定し、それについてグループのメンバーと議論しました。「教育格差」と「経済格差」の関係を、海外の視点やインフラの整備など、様々な角度から分析して、発表しました。

Q.この企画はどうやって知ったんですか？

担任の先生が、クラスでこの企画を説明してくれたのがきっかけです。企画の詳細を聞いて、面白いと感じ参加したいと考えました。参加にあたっては、課題作文等の提出などの選考もあったので、担任の先生に指導をいただきながら、準備を進めました。

Q.この企画に参加して学んだことはありますか？

もともと、やりたいことが見つからないから探しに行こうという想いで参加しました。実際に参加して、生きている世界(世界観)が広がりました。広島や青森など遠方からも参加している高校生がいたり、泥から電池を作って格差を改善しようと考え、実際に行動している他校の高校生の存在を知って、自分の意識が高まりました。また、格差の改善という問題は文系的だと感じていましたが、技術の開発を通して解決できるので理系の視点もあるということを知り、色んな学問から社会問題を分析することが面白いと感じました。

実際、社会問題に興味を持つようになり、知識を増やしたり、解決策を考える必要があると思います。様々な社会問題を調べるようになりました。

「自分で具体的に行動するきっかけになった」 IHR 佐藤君、渡邊さん

特進類型キャリアアップ研修 8月7日、8日（事前学習、事後学習は別日程）



伊東市の周辺地域について学び、東伊豆全体の魅力や課題を再発見することで、多面的な視点を持って地域に貢献しようとする高いところざしを育むことを目的に、特進類型を対象に1泊2日の研修を行いました。事前、事後学習まで、稲取で空き家改修や宿の経営に携わっている「so-an」代表の荒武優希さんや、伊豆急ケーブルネットワークと連携した企画を実施しました。研修の中では参加した生徒が自己探究を深め、今後の学習へのモチベーションとなるような企画が多数実施されました。

Q.この企画に参加して学んだことはありますか？

<佐藤君>

企画を聞いたとき、最初は受験で有利になるかもという思いはありました。ですが、事前学習で今回の企画をコーディネートしてくれた荒武さんの話を聞く中で、事業の話や地域とかかわる人たちの考え方や思いをもっと知りたいと考えるようになりました。実際「ラムネ」体験などはとても楽しく、思い出に残りました。企画に参加する中で「きっかけはどこにでも散らばっていて、



地元の方と稲取の伝統料理についてレクチャーを受ける佐藤君たち

そのきっかけを拾おうとすることが大切だ」という気持ちが高まり、Googleなどで調べるだけで済ませずに、行動に移せたことは自信になりました。これからはコンピテンシーの中でも「協働力」や「統率力」を高めたいです。私は課題を見つけた際に、自分だけで何とか解決しようとする部分もあります。今回の研修を踏まえて、自分が気付いたことを周囲も巻き込んで、取り組んでいくことができるようになりたいです。

<渡邊さん>

荒武さんの空き家改修などの話が、私の進路希望と共通する点があり、企画内容がとても面白そうだなと思って参加しました。稲取や様々な研修では、普段会わないような大人の方と「生徒」としてではなく、一人の“人間”として色々な会話ができたことがとても有意義でした。



空き家改修に取り組む渡邊さんたち

進路とか結果にこだわりすぎる考え方より、自分ができていることを増やすことが大事だと思うようになりました。実際、今回の研修に参加して、行動力は少し身についたと感じています。企画に携わった方々に自分からアポイント(日程調整)のメールを送ったり、実際に研修後に再訪問して話を聞いたりしました。その中で、大人とコミュニケーションを取る方法をより実践的に学ぶことができたと思っています。今後は、学校が用意してくれた企画だけではなく、ゼロの状態だったとしても自分で考えて動けるようになりたいと思いました。「みらい学」や「授業」など、他の場面でも行動することを大事にしていきたいです。

編集後記

3人に共通したのは、活動に実際に参加したことで自分の考え方や行動が変わったということです。取材をさせてもらい、自信をもって自分の活動を話してくれた姿が印象的でした。参加するまではハードルがありますが、自分から何かに参加した人はまた別の景色が見えてきます。伊豆伊東高校での生活の中で、色々なことにチャレンジして自分の壁を越えていってください。次回をお楽しみに！